

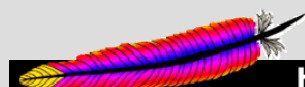
これからOSSを導入するユーザに役立つ解説資料
「オープンソースソフトウェアが開発コミュニティからユー
ザに届くまでの仕組み」を公開

2005年3月26日
日本OSS推進フォーラム
サポートインフラWG

OSS:オープンソースソフトウェア

Open Source Software

- LinuxやWebサーバのApacheなど



Apache
HTTP SERVER PROJECT

- ソフトウェアのソースコードが公開。自由に使用可能。改良し再配布可能。
- 新しいビジネスの創出、特定の技術への依存度を低くするなどの観点で注目が集まっている。

サポートインフラWG

OSS の普及、利用拡大のために「OSS のサポート」「OSS の長期利用」の観点における課題を整理し、解決のための取り組みを各方面に提案

WGメンバ (五十音順)

- | | |
|---------------|----------|
| ◆ NEC | 堀 健一(主査) |
| ◆ NTTコムウェア | 内堀 修 |
| ◆ NTTデータ | 黒岩 淳一 |
| ◆ OSDL | 平野 正信 |
| ◆ 新日鉄ソリューションズ | 小林 誠 |
| ◆ ターボリナックス | 野田 俊英 |
| ◆ 日本ユニシス | 秋山 功 |
| ◆ ノベル | 高橋 正迪 |
| ◆ 野村総合研究所 | 寺田 雄一 |
| ◆ 日立製作所 | 鈴木 友峰 |
| ◆ 富士通 | 工内 隆 |
| ◆ ミラクル・リナックス | 吉岡 弘隆 |
| ◆ レッドハット | 三橋 秀行 |

サポートに関わる PFベンダ、SIer に加え、サポートの前提として重要なディストリビュータを追加して構成

背景

- ✓ 基幹業務・社会基盤システムなどに OSS を利用
 - 長期間(10年以上)にわたるサポートが、強く望まれている
- ✓ OSS はコミュニティで自発的に開発されることが特色
 - サポートのインフラやプロジェクトのロードマップなどが、商用ソフトに比べてわかりにくいという不安感
- ✓ SIer, PFベンダ, ディストリビュータなどのサポート
 - 上記 OSS の特性もあり、ユーザの期待に充分に応えられていない場合あり
 - サポート内容に相当する費用の回収ができない場合がある

OSSになじみの無い方々への説明資料に！ ねらい：OSS導入の促進

推奨するOSSとして：

- ・ システム構築で良く使われるOSSは、『開発コミュニティ』が形成されており、長期に継続される体制が整っていること

サポート面では：

- ・ 開発コミュニティ以外のベンダがサポートを提供しており、ユーザは必要に応じた適切なサポート範囲/レベルを選択してOSSを利用できること

資料のイメージ

3. OSSに関連する組織・団体の全体像

商用ディストリビューションは、ディストリビュータ¹⁾により提供されます。

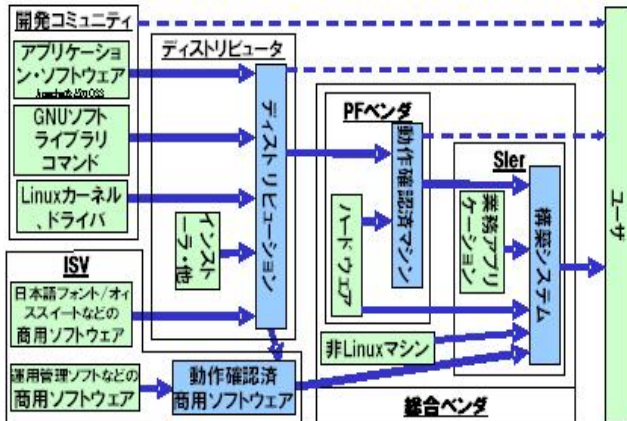


図2 関連組織・団体の全体像

ISVやPFベンダ²⁾は、主に商用ディストリビューションを対象に動作確認を行い、商用ソフトウェアやハードウェアを提供します。

さらに、Sler³⁾がユーザーにシステム構築を依頼された場合は、実際のように様々なコンポーネントを段階的に組み合わせ、それぞれの段階でそれぞれの組み合わせを充分に検証したうえでユーザーに提供します。

一方、Slerに依頼せず自身でシステム構築するユーザーは、その組み合わせの動作確認は自身で行う必要があります。

上流側の開発コミュニティと下流側のサポート企業とでは、活動が質的にことなるため、それぞれに分けて捉える必要があります。

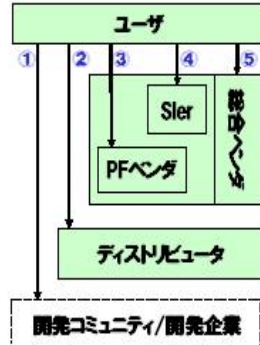
¹⁾ ディストリビュータ：構成物をパッケージ管理した上で組み合わせ、その組み合わせの動作確認をしたディストリビューションを提供する企業。

²⁾ ISV (Independent Software Vendor)：特定のアプリケーションやツールに特色を持つソフトウェアメーカー。販売するソフトウェア/プロプライエタリソフトウェアの動作OSとして、商用OSと同じようにLinuxディストリビューションでも動作確認を行い、サポート対象OSとして記載し「動作確認済みソフト」として販売する企業。また、ディストリビューションにバンドルして販売することもある。

³⁾ PFベンダ (Business ベンダ)：サーバ、ストレージなどのメーカー。これらの機器のサポート対象OSとしてLinuxディストリビューションの動作確認を行い、「動作確認済みマシン」として販売する企業。

⁴⁾ Sler (System Integrator)：ユーザーからシステム全体を請け受けて、Linuxそのもののシステムを組み合わせ、業務アプリケーションとともに提供する企業。

3-2. サポートに関するユーザーの選択範囲/レベル



OSS 提供フローの下流部分に着目すると、ユーザーから見た場合、サポート提供元の見え方に図4のようなアクセスパターンがあります。

注：前述したように開発コミュニティをサポート提供元と見るのは妥当でないことに注意してください。(④のアクセスパターン)

図4 エンドユーザーからのアクセスパターン

ユーザーは、どのベンダにどの役割までを依頼するかによって、サポート費用と提供されるサポート範囲/レベルが変わってくる(表1)ことを認識してOSSを扱う必要があります。このような、いろいろな選択肢が保証されるのもOSSのメリットの一つですが、自己責任の度合い(表中網掛け部分)が変わってくることに注意が必要です。

表1 アクセスパターンごとの役割分担

作業役割 (例)	①	②	③	④	⑤
ディストリビューションの作成 (OSS間の整合性)	ユーザー	ディストリビュータ	ディストリビュータ	ディストリビュータ	ディストリビュータ
ターゲットマシンへのインストール	ユーザー	ユーザー	PFベンダ	PFベンダ (Sler)	総合ベンダ
ターゲットマシンでの動作確認	ユーザー	ユーザー	PFベンダ (ディストリビュータ)	PFベンダ (Sler)	総合ベンダ
様々な機器(non-Linuxを含む) やソフトウェアを利用したシステムの提案	ユーザー	ユーザー	ユーザー	Sler	総合ベンダ
システム構築・評価	ユーザー	ユーザー	ユーザー	Sler	総合ベンダ
運用時の問題切り分け等	ユーザー	ユーザー	ユーザー	Sler (ユーザー)	総合ベンダ (ユーザー)

⁵⁾ Slerが使用するマシンがPFベンダにより動作確認されていないモデルを扱う場合、Sler自身がインストールや動作確認を行う場合がケースとしては少ないが存在する。同様にSlerがディストリビューションに手を入れたり作成する場合があるが、ここではアクセスとして書いている。

A-9.Samba

Samba(「サンバ」と呼称)はLinuxや*BSDなどを中心としたUNIX系OSにおいてWindows系OS 互換のファイルサーバ/プリント・サーバ機能を提供するソフトウェアです。

ライセンス GPL (GNU General Public License)

コミュニティの概況

Sambaはオーストラリアの Andrew Tridgell (アンドリュー・トリッジェル)氏らによって1992年に開発されました。Linuxの普及によりLinux上のユーザー数が急増しています。すでに多くのユーザーが長い間活用しています。

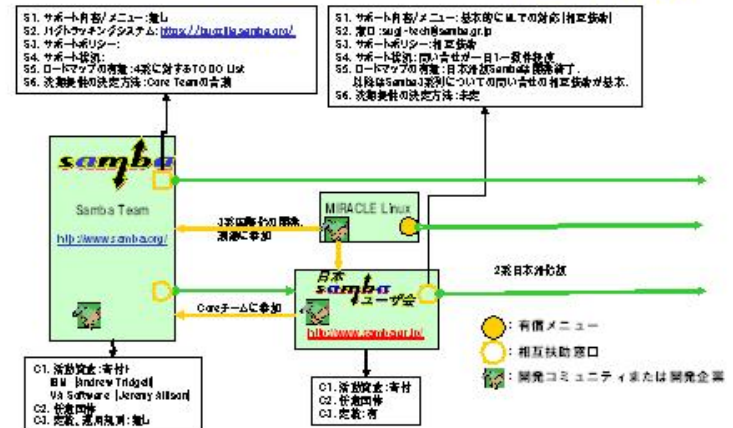
現在Sambaは、IBM Almaden Research Centerの Andrew Tridgell氏¹⁾やVA Software社の Jeremy Allison (ジェレミー・アリソン)氏らによってボランティアではなく、専任の担当者によって、開発・サポートが行われています。(日本人を含めた世界中のボランティアの方も多数参加)

現在提供されているSamba 3.0では、Windowsドメインコントローラの複製サポートやActive Directoryのサポートなど、ますます企業や学校などの大規模システムでの利便性・適応性が増えています。

なお、Samba 2.2.x日本語版は、Samba 2.2.xをベースに国際化や日本語機能の細かい問題点の修正等の取り込みを行ったバージョンであり、日本Sambaユーザーから提供されています。特に、Samba 2.0.x日本語版で実装されたS'WAT(「スワット」と呼称)の国際化などです。

Samba 3.0については日本語版という形で日本Sambaユーザーからリリースする予定はなく、開発元である samba.orgでのリリースにマージされています。

(参考：日本Sambaユーザー会 Web <http://www.samba.gr.jp/>)



図A9 Sambaの開発コミュニティ

2004年10月現在、執筆担当日本電気

¹⁾ 2005年1月17日 OSDI にフェロー (特別研究員)として移籍しました。